

「斎藤その女」を調べる



「斎藤その女」とは

江戸時代の女流俳人。天明元年（1781）頃、大穴村の斎藤安兵衛家に生まれた。斎藤家は富農で、江戸時代後半には代々名主をつとめた家柄であった。同家には俳諧をたしなむ家風があったらしく、その女も若年から俳諧に親しんだ。初めは江戸の俳人夏目成美に学び、続いて田川鳳朗、その没後は鈴木松什についた。句集『憑蔭集』を80歳に刊行するなど、晩年まで句作を続けたが、慶応4年（1868）に逝去し、大穴村の西光院に葬られた。その女の墓は市の文化財に指定されている。

『憑蔭集（たのむかげしゅう）』（影印版） 斎藤その女／編著 船橋市史談会／発行

請求記号：110/91/夕 資料番号：O11149549

文久元年（1861）、その女80歳の時に祝いの会を催し、記念に刊行した俳諧の書。書名の「たのむかげ」とは、その女の庵の傍に大きな椎の木があったので、俳諧の師である松什が庵を「憑蔭舎」と名付けたことに由来するという。その女の句は120余り収められている。

「斎藤その女」に関する主な文献一覧

書名	著者等	請求記号 資料番号	該当箇所等
『憑蔭集 釈文・解説』	船橋市史談会／編	110/91/夕 014617344	『憑蔭集』の釈文に加え、解説・注釈・略年譜等を収録
『船橋市史 前篇』	船橋市／編	110/21/フ 012153664	「大穴の俳人斎藤その女と寺院西光院」(pp.872-875)
『船橋市史 近世編』	船橋市史編さん委員会／編	110/21/フ 013732599	俳諧の普及「④斎藤その女」(pp.392-394)
『船橋歴史風土記』	綿貫啓一／著	110/21/フ 011603420	「郷土の文学者たち その女」(pp.112-115)
『船橋市史研究 2』	船橋市史編さん委員会／編	110/21/フ 011603693	「船橋市内の句額-地方史における俳諧にふれて-」(pp.1-27)
『船橋市の文化財』	船橋市教育委員会／刊	110/70/フ 014639694	「斎藤その女等奉納句額」(p.37) 「俳人斎藤その女の墓」(p.51)
『人づくり風土記 12』	農山漁村文化協会／刊	000/21/ヒ 013604194	「織本花嬌と斎藤園女-房総俳壇の二輪の名花」(pp.317-325)
『史談会報 第27号』	船橋市史談会／編	110/21/シ 014103303	「斎藤その女 補遺」(pp.16-19)